

サクラ類の被害状況からみた

クビアカツヤカミキリの大阪府内での分布

○山本優一¹・上原一彦¹・石川陽介²・吉村剛³

¹大阪府立環境農林水産総合研究所

²農林水産省神戸植物防疫所

³京都大学生存圏研究所

2015年、大阪府内において主にバラ科樹木を加害する侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生が確認された。演者らは初発地域周辺の13調査地点のサクラ類を対象に、特徴的なフラス(幼虫が排出する木屑や糞の混合物)の有無から本種による被害状況を2015年から調査してきたが、新たな地域において成虫やフラスの発見報告が相次ぐなど、被害が拡大している状況が推測された。そこで、2017年に本種による被害状況を広域で調査し、本種の分布状況を明らかにしたので報告する。

調査は、経年調査地13地点を含む15km×15kmの区域内の計141地点のサクラ類2935本において、2017年7月31日～9月25日に実施した。各調査地点で単木ごとに位置座標、被害の有無、並びにクビアカツヤカミキリ成虫の脱出孔数を記録した。なお、各調査地点の位置座標は、調査地点内の全調査木の位置座標の平均とした。

経年調査地13地点のうち2015年に被害木が確認された7地点の位置座標の平均を中心点としたところ、被害木の割合(被害木数/全調査木数)は半径1km以内で40%(70/177)、1～2kmで27%(67/252)、2～3kmで12%(76/636)、3～4kmで7%(37/522)と中心点から離れるにつれて低下し、4～5kmでは被害が確認されなかった(0/249)。一方、中心点から5～6kmの3%(9/347;計2地点)、6～7kmの5%(19/352;計5地点)でも被害木が認められ、複数地域への飛び地的な被害木が確認された。被害木あたりの脱出孔数(脱出孔数合計/被害木数)は、半径1km以内では5.7個(402個/70本)、1～2kmで1.4個(92個/67本)、2～3kmで0.3個(24個/76本)、3～4kmで1.2個(45個/37本)であり、中心点の周辺で多いものの、3～4km地点からも成虫の羽化が確認された。なお、飛び地的な被害木のうち、中心点から6km～7km以内の調査地点でも1つの脱出孔が確認され、その周辺地域では被害拡大の警戒が必要であると考えられた。

Distribution of the red necked longhorn beetle (*Aromia bungii*) inferred from the damage to ornamental cherry trees in Osaka Prefecture.

Yuichi Yamamoto¹, Kazuhiko Uehara¹, Yosuke Ishikawa², Tsuyoshi Yoshimura³

¹ Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture.

² Kobe Plant Protection Station, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan.

³ Research Institute for Sustainable Humanosphere, Kyoto University.